

Covid-19の漢方治療を考える3 -重症化する肥満者について-

臨床 § 症 例

峯 尚志



はじめに

今回はCovid-19の漢方治療の3回目で、肥満者の漢方治療について考えます。2020年春、Covid病棟の担当医に聞くと、重症者として搬送されてくるのは、30代から50代の中年の肥満者ばかりだったそうです。その後高血圧、肥満、糖尿病、脂質異常症などのメタボリック症候群を伴う患者さんは重症化する例が多く、ハイリスク群に分類されるようになりました。

東洋医学的には肥満者は痰飲と瘀血を両方持つ痰瘀互結証と弁証される例が多く、脂肪過多の患者さんは、サイトカインの発現も激しく、組織の損傷を伴い湿熱症を伴いやすく、病気の経過の中で瘀血を伴いやすいこともわかってきました。このような患者さんの漢方的な治療戦略について論じていきたいと思います。

肥満は痰飲を生ずる

痰飲とは？

人体局所に停滞した異常な水液

分類	特徴	停滞部位
痰	粘稠で混濁	臓腑・骨・筋腱・筋肉・皮膚
飲	比較的希薄	胸・脇・胃腸・皮膚

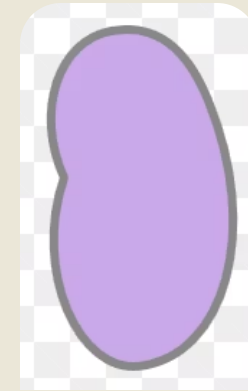
痰飲は、五臓六腑とりわけ水液代謝に関連する肺・脾・腎・三焦の機能が失調することで形成される



肺



脾



腎

三焦



清流

水は冷たく、さらさらと流れよどみをつくらない

濁流

停滞した水は、よどみ、生暖かい汚濁をつくる

停滞したうすい水を水飲さらに粘り気を増した水を痰飲という



さらに淀みがすすみ毛細血管への環流が
障害され間質にも血管内にも汚泥をつくる



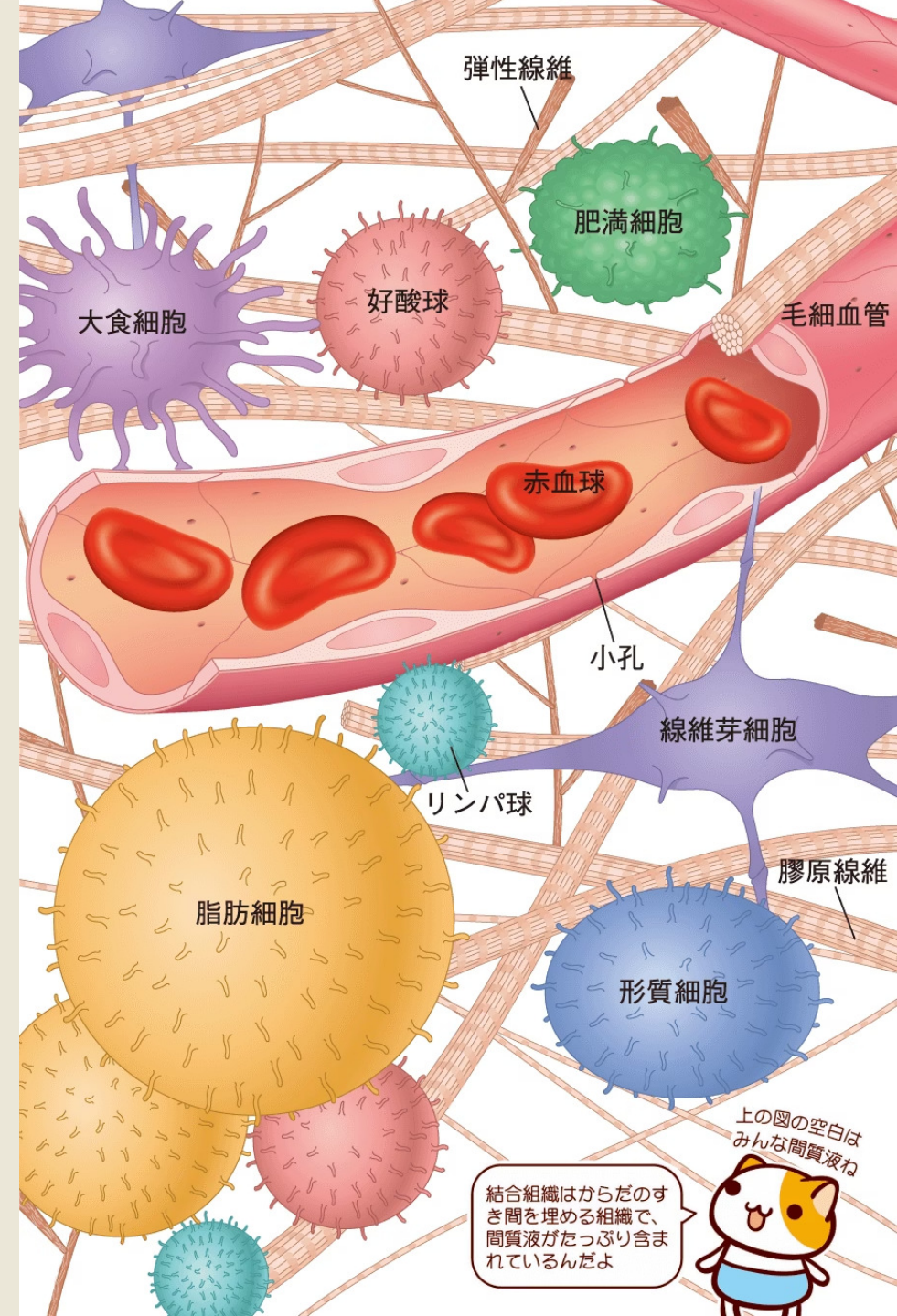
血管(脈内)

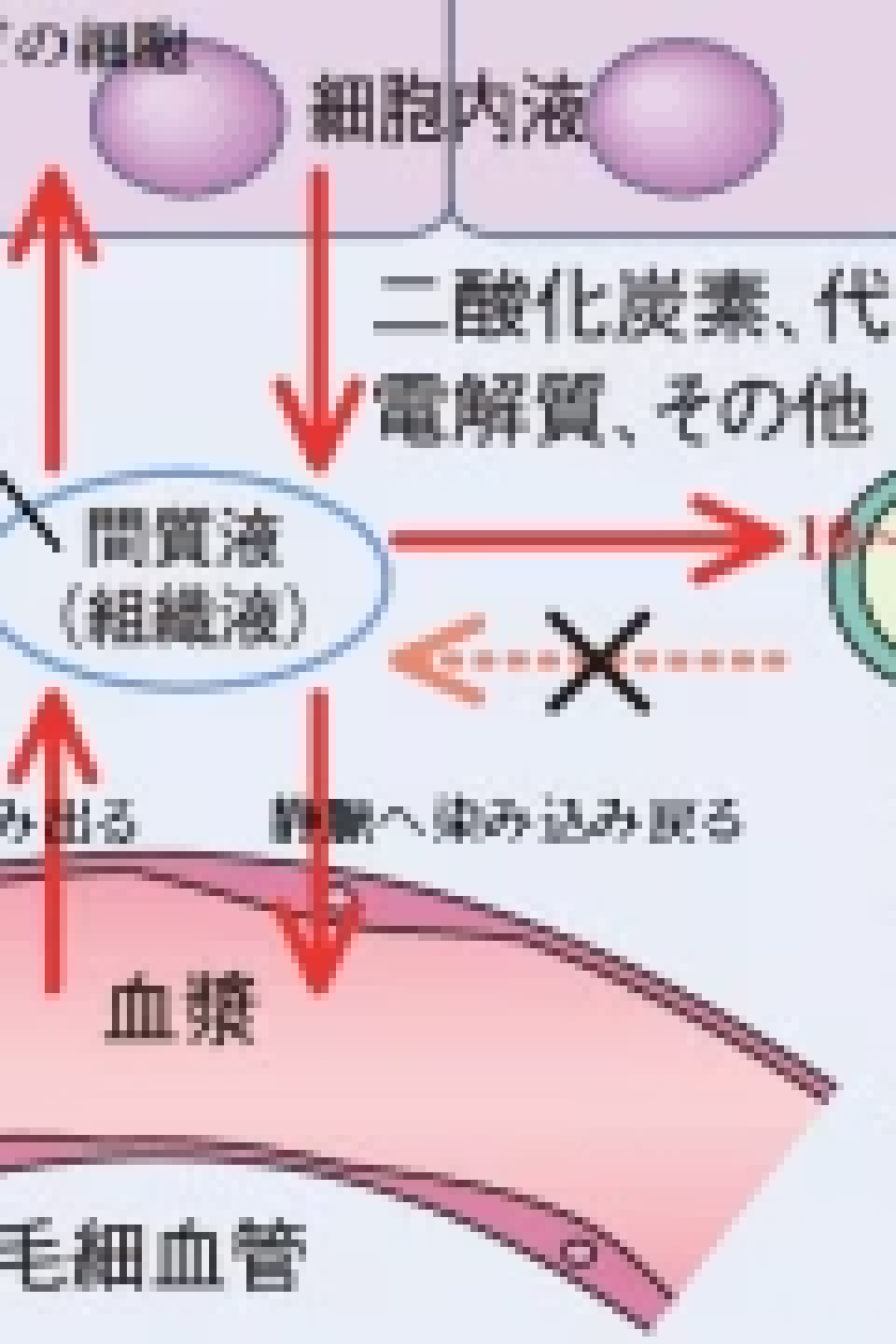


間質

水液代謝に関与する水は、単純な水ではない血の栄養成分や酸素,免疫細胞や細胞からの老廃物などを含んでいる

間質の構造

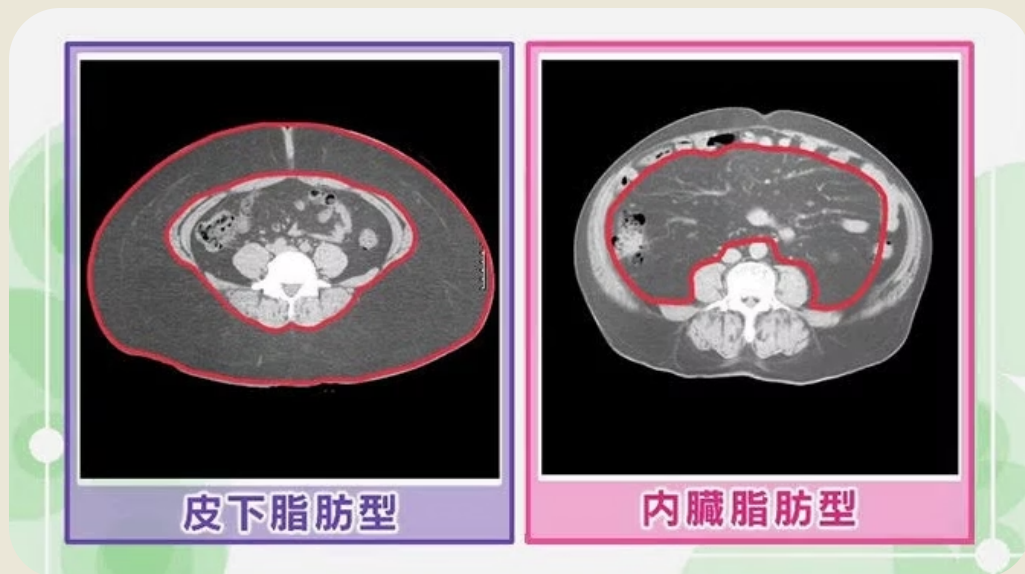




間質液の流れ 血から水へ、水から血へ

痰飲は間質、細胞、血管、臓腑、体中いたるところに蓄積する

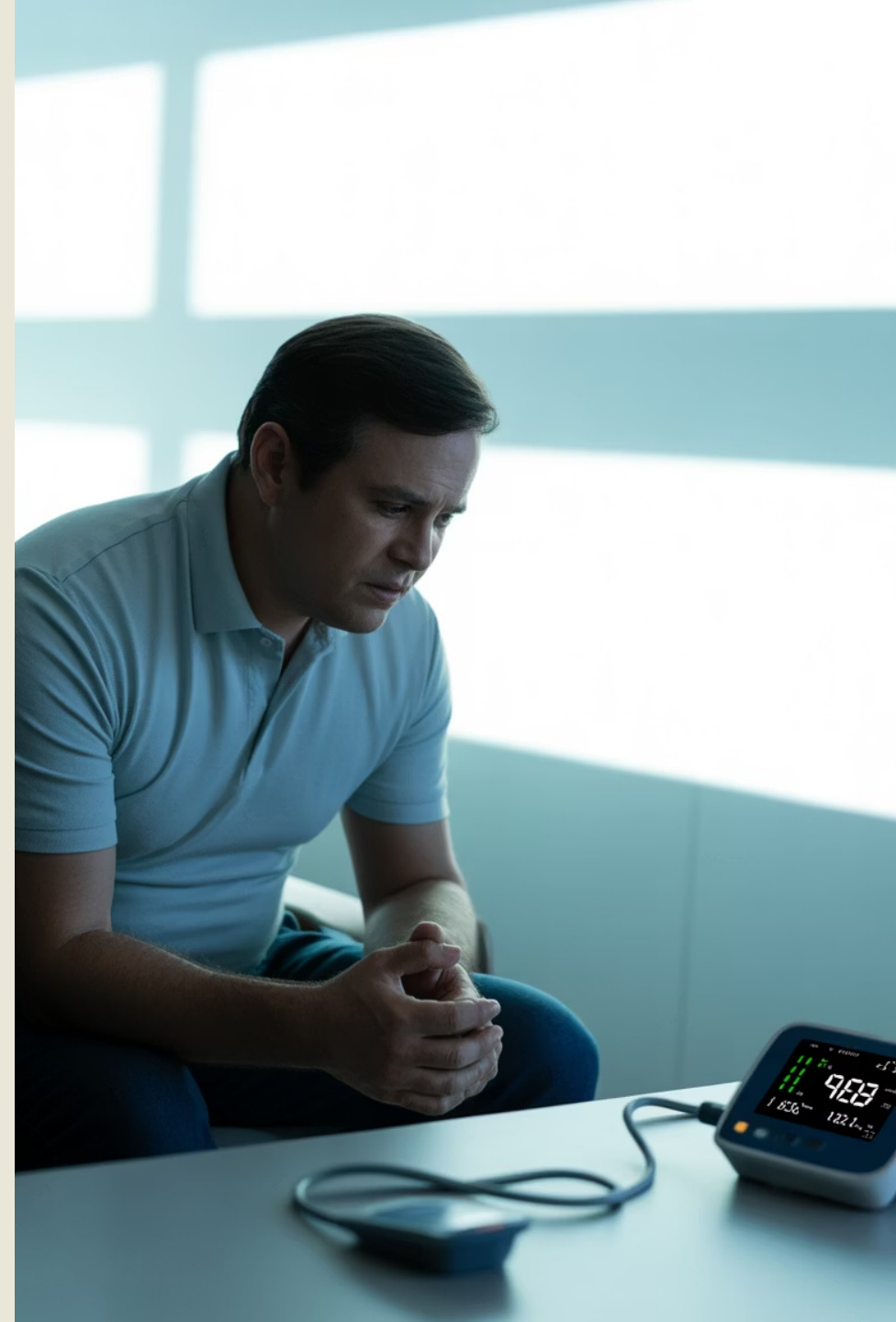
血管の中にたまったら動脈硬化皮下組織に貯まったら皮下脂肪肝臓にたまれば脂肪肝



痰は気にしたがって昇降し、全身いたるところに現れる 『類証治裁』

- 肺にあれば咳
- 胃にあれば嘔
- 心にあれば悸
- 頭にあれば眩
- 背にあれば冷
- 胸にあれば痞
- 脇にあれば脹
- 腸にあれば瀉
- 経絡にあれば腫
- 四肢にあれば痺

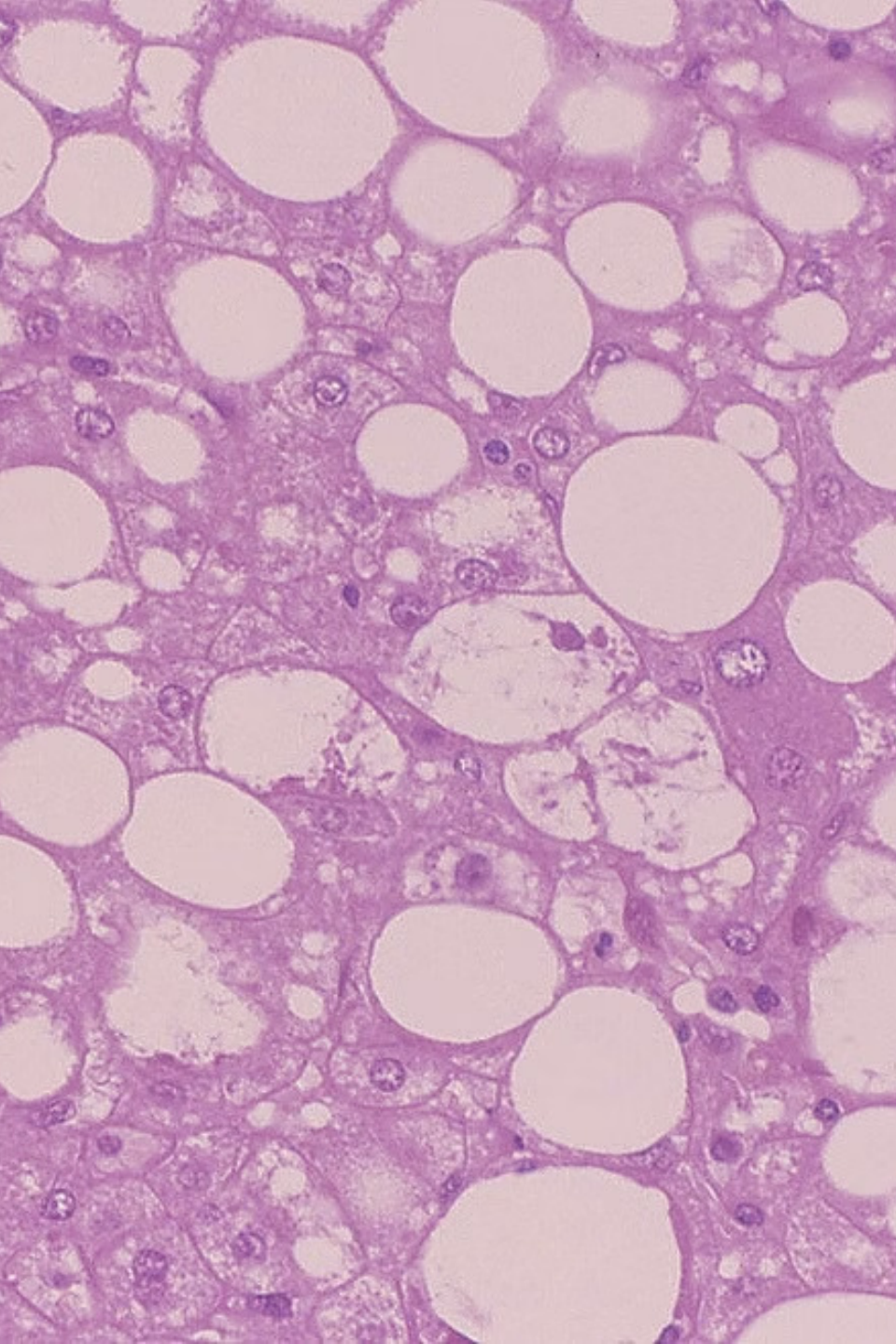
痰飲病の代表はメタボリック症候群



メタボリック症候群の治療

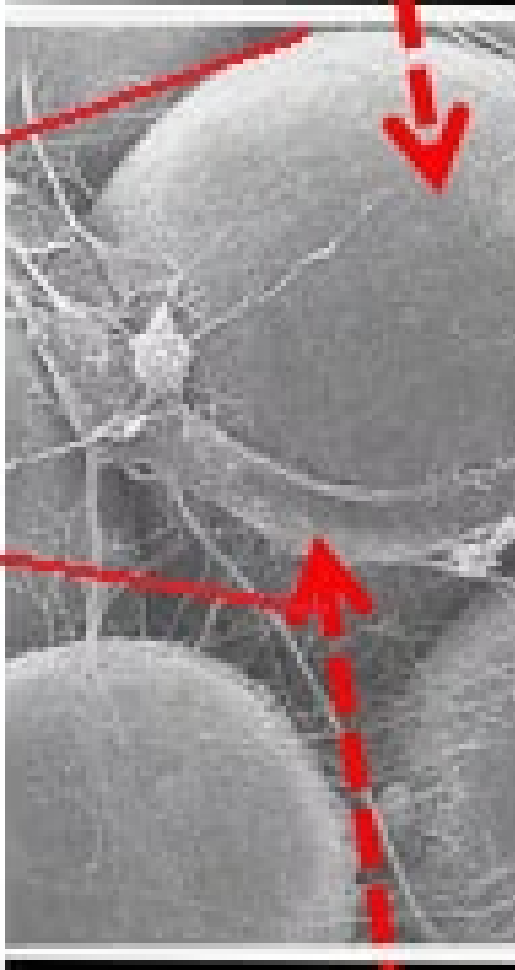
- 食事
 - 運動
 - 睡眠
 - 薬物療法
- 脂質異常症→EPA、スタチン、フィブラート
 - 糖尿病→血糖降下薬、インスリン
 - 高血圧→降圧薬
 - 高尿酸血症→尿酸生成阻害薬、尿酸排泄薬
 - 血栓予防→抗血栓薬

脂肪肝を例に痰飲病を考える



肝細胞に蓄積した脂肪

脂肪細胞



毛細血

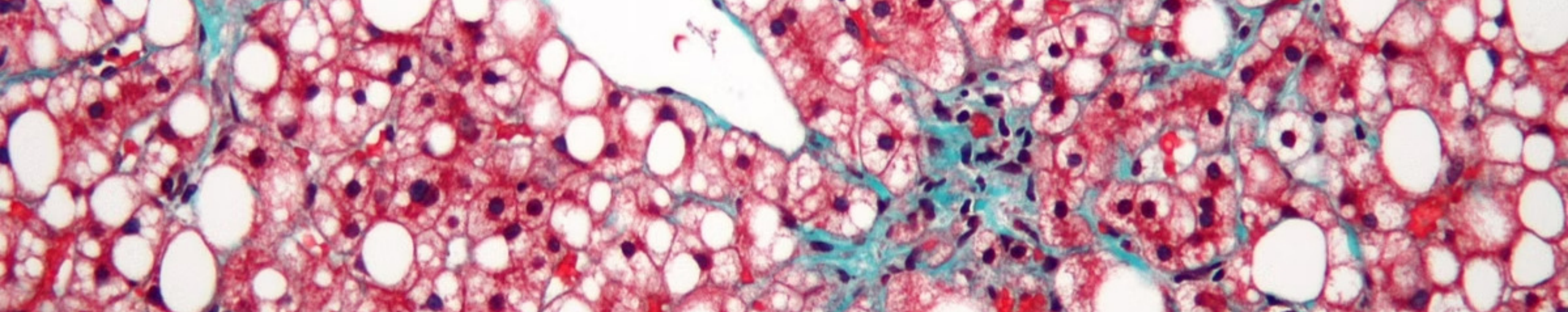
ミクロ的な瘀血の形成

肥大した細胞によって

間質の円滑な代謝活動は阻害され

リンパ管、毛細血管は圧迫され

リンパの流れ、血液の流れが阻害される



非アルコール性脂肪肝

マッソン・トリクローム

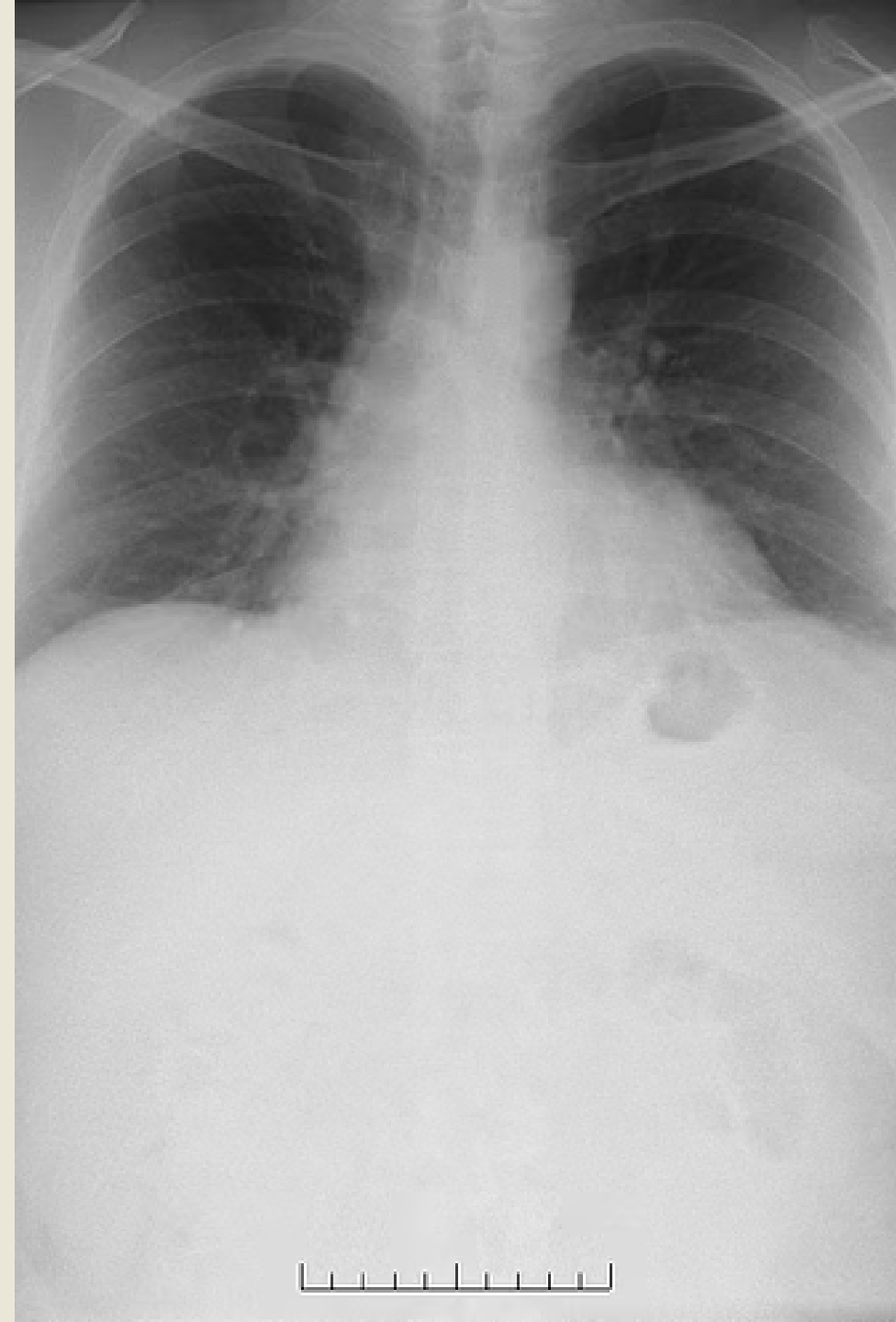
およびヴァーホフ染色

大きな楕円形の空隙が脂肪滴、残った肝細胞は赤、死滅した細胞の痕に集まった線維が緑に染まっている。大きく膨らんだ脂肪滴が、圧迫により肝細胞の核を変形させている。



脂肪肝では脈管が圧迫され血流も阻害される→マクロ的な瘀血

肥満者は吸気の状態では横隔膜が固定され動きにくくなっている呼吸が浅く十分な酸素を取り込めない→これも瘀血の原因



痰飲病は進行すると必ず瘀血を伴う肥満者の治療には化痰薬だけでは不十分必ず駆瘀血薬を併用する必要がある。

血必浄

- 当帰・赤芍・川芎・紅花・丹参を配合した注射薬
- 中国では敗血症、重症肺炎などに日常的に用いられている。
- 肺炎を起こした中等症、重症の新型コロナウイルス感染症の治療に用いられる



冠心II号 丹参、赤芍、川芎、紅花、降香

- 冠元顆粒(イスクラ)
- 丹参、川芎、芍薬、紅花、木香、香附子

瘀血をとる生薬

動脈系 血液を運ぶ

当帰、川芎、芍薬、紅花、丹参、サフラン

静脈系 老廃物を戻す、うっ血をとる

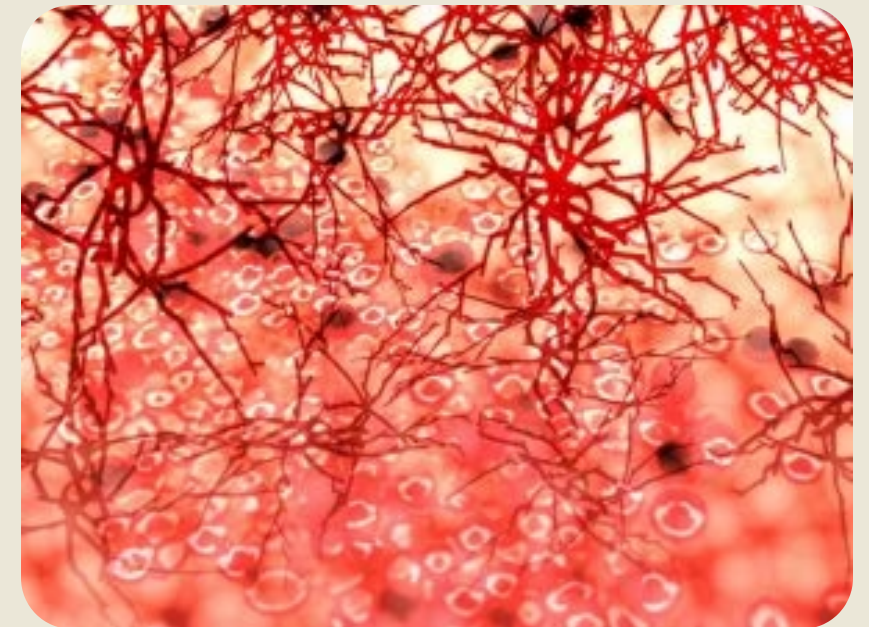
牡丹皮、桃仁、田七

通絡

地竜

特に鎮旧性の瘀血

水蛭、しゃ虫、虻虫



メタボリック症候群の漢方

三黄瀉心湯

通導散

竜胆瀉肝湯

防風通聖散

大柴胡湯

茵陳蒿湯、茵陳五苓散

肥満者の痰飲病を治すには 血を流し、邪熱をとることが必要

龍胆瀉肝湯

当帰2、芍薬2、川芎2、地黄2、黄連2、黄芩2、黄柏2、山梔子2、連翹2、薄荷2、防風2、木通2、車前子2、沢瀉2、竜胆3

通導散

当帰3、紅花2、蘇木2、甘草2、厚朴2、枳実3、木通2、陳皮2、 大黃3、芒硝1.8

肥満し、痰熱を伴うCovid-19に対する防 風通聖散の適応を考える

臓毒証体質

臓毒証体質とは風毒、血毒、食毒、水毒の4つの毒が日々の生活の中で蓄積されて、病気が起こりやすくなっている体質。本来は胃腸が強くて丈夫な体なのに、美食や運動不足、暴飲暴食などの不摂生によりいろいろな症状が起こる。例えば甘いものを食べるとアレルギーが悪化することあり、アルコールや刺激物のとりすぎで炎症がひどくなることもある。

感染症と臓毒証体質

臓毒証体質者は、青年期、壮年期に注意すべきことは諸種の熱性伝染病にかかり易い傾向がある。壮年期においては、さらに神経痛、脊髄炎、腎臓疾患、糖尿病、神経衰弱症(壮年期の)常習性便秘症、癆、癰、痔疾などを起こし易くなる。また、喘息とこの体質者とはつきものである。壮年期以後 この時期は、前記の病気以外にさらに動脈硬化症、脳溢血、萎縮腎等をやむ。

防風通聖散の処方構成 (感染の時期にも使用できる)

防風、荊芥、薄荷、麻黄
解表

麻黄、甘草、石膏
清肺熱利水

当帰、芍薬、川芎
補血活血

黄芩、山梔子、連翹、桔梗
清肺熱、上焦の熱をとる

大黄、甘草、芒硝
中焦の熱をとる、大便から熱を捨てる
(調胃承気湯)

甘草、白朮、生姜
補脾、調和中焦

滑石、山梔子
下焦の熱をとる 尿から熱邪を排泄

(身体にたまった老廃物を呼気、汗、尿、便から捨てる処方)

通導散は痰瘀互結証を意識した処方



当帰

補血



木通

利尿、行血通経



陳皮

理気化痰



紅花、蘇木

駆瘀血



大黃、芒硝、厚朴、枳実(大承気湯)

清熱瀉下、理気化痰



甘草

諸薬調和

肥満者の感染初期の処方例

防風通聖散

3包

五虎湯

3包

柴苓湯

3包

桂枝茯苓丸

3包

肥満者のCovid-19の処方試案

麻黄5、杏仁5、甘草2、石膏20

防風10、荊芥8、連翹6、薄荷2、十葉8、芦根8

丹参6、当帰3、芍薬3、川芎3、紅花3、桃仁6

地竜6

大黄1、芒硝0.5、厚朴5、枳実3

柴胡15、黄芩5、黄柏3、山梔子2

蒼朮8、茯苓6、沢瀉6、木通3



まとめ

肥満者は脂質異常症、高血圧、糖尿病などを合併し、血管合併症を併発しやすい

肥満者はcovid-19のハイリスク群である

そのため日常から痰瘀互結証の治療をしておくことが必要

また、肥満者は熱化しやすく温病理論の湿熱の考え方が使える

臓毒証体質に用いる防風通聖散は解表薬を含み、上中下焦から病毒を排泄する作用をもち、新型コロナウイルス感染中でも用いることができる処方である

この処方に桂枝茯苓丸、通導散、冠元顆粒など駆瘀血薬を併用することが望ましい。

東 洋 医 学 備 忘 録

Memorandum of Oriental Medicine

臨床 § 方 剤